

萬葉集略解

十四上

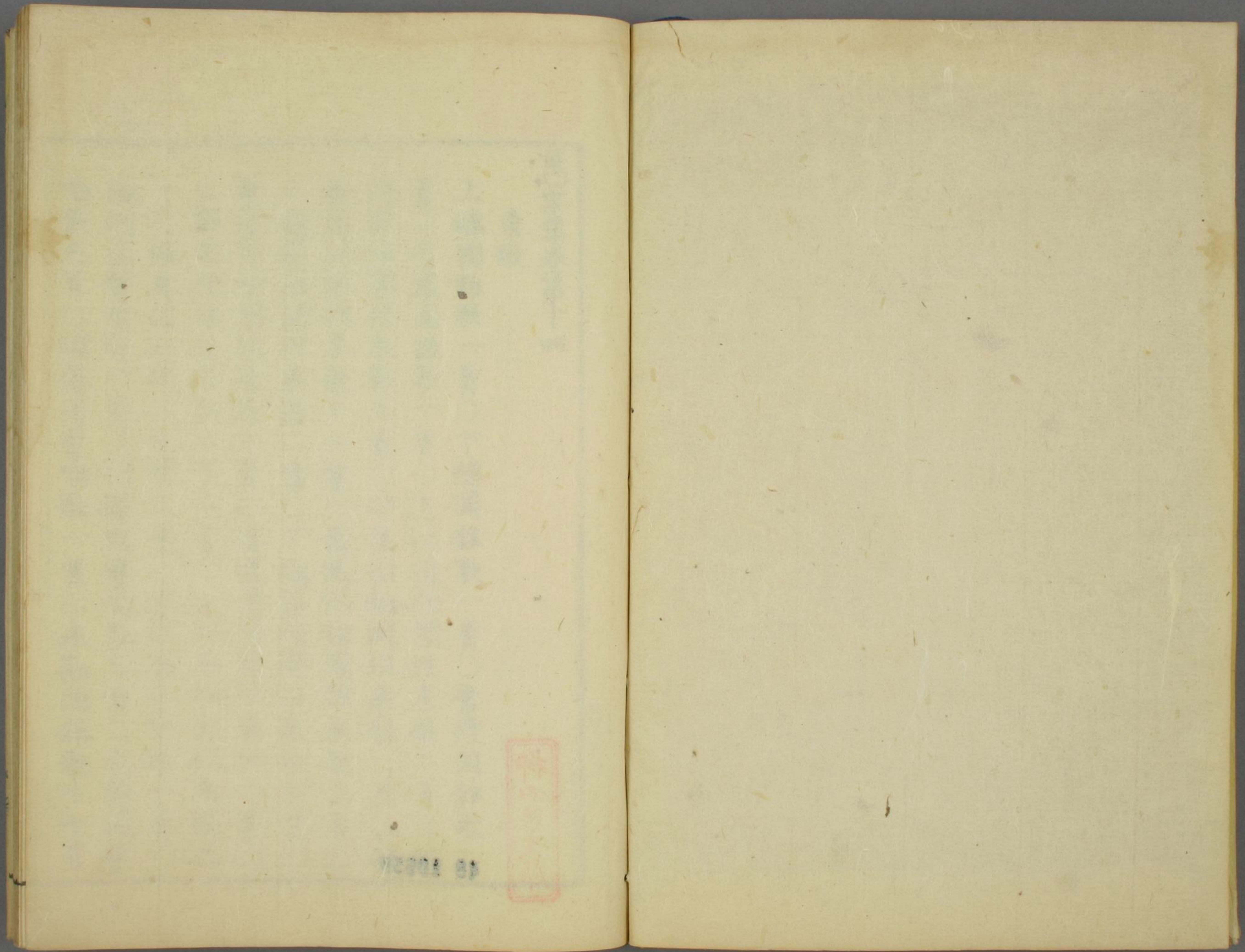
柳田文庫

文庫11

A 104

21





文庫 11
A 104
21

萬葉集卷第十四

東歌

上總國雜歌一首○下總國雜歌一首○常陸國雜歌二
首○信濃國雜歌一首○遠江國相聞往來歌二首○駿
河國相聞往來歌五首○伊豆國相聞往來歌一首○相
模國相聞往來歌十二首○武藏國相聞往來歌九首○
上總國相聞往來歌二首○下總國相聞往來歌四首○
常陸國相聞往來歌十首○信濃國相聞往來歌四首○
上野國相聞往來歌二十二首○下野國相聞往來歌二
首○陸奥國相聞往來歌三首○遠江國譬喻歌一首○
駿河國譬喻歌一首○相模國譬喻歌三首○上野國譬
喻歌三首○陸奥國譬喻歌一首○未勘國雜歌十七首



48 10659

○未勘国相聞往来歌百十二首○未勘国防人歌五首
 ○未勘国譬喻歌五首○未勘国挽歌一首

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

東歌

此歌は小難奇相聞ありて上総国寄るる標あるは皆後人の後なる
 きよ考まゝをわいおろしむるにこゝろをせり

奈都素妣久宇太加美我多能於伎都渚爾布禰波等杼米
 牟佐欲布氣爾家里

なつそびくうぢあつこのおまじすまふねいといひ人きよよけのちゆ
 まつそびくゆのむ名身よ総海上郡宇太加美 事々ま布令同きまろこ
 よ載るる五その中、神二そと来一そは在あつたうぢ、改まろこははるこ
 ゆうとそ人のまうてのちあふまろこ、あまいひま人のまのあの日うぢ
 下しそびあつと、それいそあつたうぢ、まのまのまろこ、まのまのまろこ
 と集のまろこ、まのまのまろこ

右一首上総国歌

可豆思加乃麻萬能字良末字許具布禰能布奈妣等佐和
久奈美多都良思母

かづこのまのうまをこごのよまびくさわぐなみこころし

昔竹取直向ハヒトスラコリコトマハ改メカキ七風ヨのニヤの海まを
こゝ舟の舟人さわぐはまきこころしとくさしめさうまえつとほくゆらこ

右一首下總國歌

筑波禰乃雨比具波麻欲能伎奴波安禮抒伎美我美家思
志安夜爾伎保思母

つとねのあひぐはまよのまあはあれださみぶみけくあやさきりし

和名抄素麗唐韵云蟻和名又東金即素蠶也新蚕の俗をま
波万由とも古る記奴婆多麻能入路岐美祁斯速シハ新衣とみ
東傳ハ川アあやまはうまゆらうまほハ古ハ男女の衣とるまか

是せしむれはまうしとまわがむとまありしとくまをねむれとも
移してまねまうしとくまわがむとまありしとくまをねむれとも
居る官人たるの衣服のまきをこくよめらるるハ上句のまよきのみゆら

或本歌曰多良知禰能又云安麻多伎保思母

筑波禰爾由伎可母布良留伊奈字可母加奈思吉兒呂我
爾努保佐流可母

つくねゆらひもすらふまをよむかむしあころがゆらほまのあも
あらまのあはれのまをほひまよハ否よまのあはれまのあはれまのあはれま
しむこころあぬハ布ハゆらまのあはれまのあはれまハ布とん
なりてよみハ布のあはれまのあはれまのあはれまのあはれまのあはれま

又さゆりゆゑとていふ

右二首常陸國歌

信濃奈流須我能安良能爾保登等藝須奈久許惠伎氣婆
登伎須疑爾家里

志まぬあさむくのあはりのほよむをわけてあまげがさかきあは

和名抄信濃筑摩郡葺草賀曾加つらみをもぢりんけしすくなく

ゆらんをもぢりす都らの叶まぞれを焚くともあつみの個もあ人

の何うとあはれしあひりん又あつの方よそむがととらん

右一首信濃國歌

相聞

あはれすなまきく標せが右五その秋めさし新あつむとすた
あつと標しつ草次の因あふれとたはつせしあつともあつむおすお

貞目

阿良多麻能伎倍乃波也之爾奈乎多氏天由吉可都麻思
自移乎佐伎太多尼

あらたあまのまのまやふたあをんてゆたむあせなをたせたりふ

遠江鹿玉郡其十一樸アヲタノキ之寸戸タチノヤ竹垣タケノキくまへんそよよきくしんあつと

いといの汝とまぢりてくぬきあつすもつ雪が積りく自ハげの程もいハ

即群と本自とちくつましくし所の信ん自と信ちよ用ひいしゆををれ

バヤウましごふし寝とをまねん尼ハ孫よ過リつあつらこのまをサもあつと

つそねと都久波尼とまじりバ尼ハ即孫のうまけつすしあつらあつと

ハ男のオオて伎倍の林もまぢりとすふ女ハさあ母のゆもあつらあつと

まぢらふまぢのあつと林も積りんハ塔ドあつとあつとあつとあつと

不盡能補乃伊夜等保奈我伎夜麻治字毛伊母我理登倍
婆氣爾餘婆受吉奴

よのねのいやとほたものやまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

ゆきまきまのまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

よのねのいやとほたものやまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

てまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

可須羨為流布時能夜麻備爾和我伎奈婆伊豆知武吉氏

加伊毛我奈氣可牟

かまのいかにあまのいけよよりのまぢ

あまのいかにあまのいけよよりのまぢ

よのねのいやとほたものやまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

佐奴良久波多麻乃緒婆可里古布良久波布自能多可補

乃奈流佐波能其登

よのねのいやとほたものやまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

あまのいかにあまのいけよよりのまぢ

よのねのいやとほたものやまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

あまのいかにあまのいけよよりのまぢ

よのねのいやとほたものやまぢをまのいかにあまのいけよよりのまぢ

あまのいかにあまのいけよよりのまぢ

或本歌曰麻可奈思美奴良久波思家良久奈良久波伊

豆能多可禰能奈流左波奈須與

奴良久の下波一也、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
いふもの、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く

一本歌曰阿敵良久波多麻能乎思家也古布良久波布
自乃多可禰爾布流由伎奈須毛

とけハ次ニ及ス、この波のや、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
宜きまら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く

駿河能宇美於思敵爾於布流波麻都豆夜伊麻思乎多能
美波播爾多我比奴 一云於夜爾多我比奴

もるのらみ、たつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
或は、いふもの、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
いふもの、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く

毛夜夜ふしつらみ、たつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
もはつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
もはつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く

右五首駿河國歌

伊豆乃宇美爾多都思良奈美能安里都追毛都藝奈牟毛
能乎美大禮志米梅楊

いづのみふ、たつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く

改ハ、たつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
もはつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く
もはつらみのあつとも、まら久のよつ本作の字、まはちのちと誤作く

或本歌曰之良久毛能多延都追母都我牟等母倍也美
太禮曾米家武

我名可氣氏安乎禰思奈久流

これハ秋父心とありて、
田方とて、
わしとて、

和我世古乎夜麻登徹夜利氏麻都之太須安思我良夜麻
乃須疑乃本能末可

衛士をいふより、
文選柱翳とて、
よみとて、
杉の大木をいふ、

安思我良能波姑禰乃夜麻爾安波麻吉氏實登波太禮留

乎阿波奈久毛安夜思

あがらのたごねのやまふあまやうみと、
うまなれるとるの葉なる、

或本歌末句云波布久受能比可利與利已禰思多奈保
那保爾

その三の句、
引れより、
うんき、
ちりやと、
とくより、

可麻久良乃美胡之能佐吉能伊波久敷乃伎美我久由倍

あがりのまのきかたをいへばゆめよふたはらひのきんぎのりかきんぎ
 ありつゝま極く足極下敷の毛肥の杉らまゝいへばいへば交まらぬま今
 湯河原より村を湯を古の湯をいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 又ころのいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 の娘がとて文よあゝいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 水よあまたゆふいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 は丈夫あつたつとよよのいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 ぞとていへばいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへばいへば
 阿之我利乃麻萬能古須氣乃須我麻久良安是加麻可左
 武許呂勢多麻久良
 あがりのまのきかたをいへばゆめよふたはらひのきんぎのりかきんぎ
 足極のまのきかたをいへばゆめよふたはらひのきんぎのりかきんぎ

あり、いへば、あゝいへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、
 ころのいへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、
 うんとりやん

豆字野

安思我里乃波故禰能禰呂乃爾古具佐能波奈都豆麻奈
 禮也此母登可受禰牟

あがりのまのきかたをいへばゆめよふたはらひのきんぎのりかきんぎ
 ねろのいへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、
 こゝろのいへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、
 豆のいへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、
 豆まをいへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、いへば、

安思我良乃美佐可加思古美久毛利欲能阿我志多波婆倍

宇許知氏都流可毛

あはれものみさこのかこみくろりよのあはまきげゆいふたてしものひ
くろりよの杖宿るんとあはれまきまねてかたけのうへはよこりぬのうへ
龍傳さか久い巳欲ハ奴の 隠活乃下延置而とあふ
あぢきまつて、まきまハまのむさふ同く、まきまのひばりて物まきとい
そハ女とといけり妻同くまきまといふ、まきまのひばりて物まきといふ
且柄のいふ、遠人ともく、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて
かハ女とといけり妻同くまきまといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて
まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
と、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
夜、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ

万解十四上 十一

相模治乃余呂伎能波麻乃麻奈胡奈須兒良久可奈之久

於毛波流留可毛

とがみものもろびのたまのまきまといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
和名抄餘伎郡餘伎、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
麻本波、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
此まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ

右十二首相模國歌

多麻河泊爾左良須氏豆久利佐良左良爾奈仁曾許能兒
乃巳許大可奈之伎

たまがふふさうとて、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
武藏多麻郡の多麻川と上六序とて、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
乃奴、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
乃、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ
了、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ、まきまのひばりて物まきといふ

武藏野爾字良漱可多也伎麻左氏爾毛乃良奴伎美我名
宇良爾低爾家里

武藏野乃字具奇我吉藝志多知和可禮伊爾之與此欲利

世呂爾安波奈布與

古非思家波素氏毛布良武字牟射志野乃宇家良我波奈
乃伊呂爾豆奈由木

こひけそでしあんとむさゝぬのうけらぐそあいろよづかゆらん

中政名山前も、此花白く又白き葉と葉とをまかり此葉木を多む
よそ人よとあへくしと神振るしあんとそれとくくはあひくし

そごきとてうらぐらぐ花のけしきかんのんちまきまきでんかからぞ、布衣のむね
の極まりをの影いし

佐吉多萬能津爾乎流布禰乃。可是乎伊多美都奈波多由
登毛許登奈多延曾禰

とぎたまのつよとるふねのかせをいつみつちたゆとこなたえそね

崎玉取ハ海ふやうぞ、利祿の大川の船津とていもごうたとい風うがとて、
形徳い後し、を記さうしちくれいひん

奈都蘇妣久宇奈比乎左之氏等夫登利乃伊多良武等曾
與阿我之多波倍思

なつそびくしつたおひとてふとあつていんぞよあつていん

なつそびくおひ橋度ふうまいとていひそあつていん地名たるん、
此條が比ふといつち中るれば、いんちまきまきでんかからぞ、布衣のむね

おしとていんちまきまきでんかからぞ、布衣のむね
とぎたまのつよとるふねのかせをいつみつちたゆとこなたえそね

右九首武藏國歌

宇麻具多能禰呂能佐左葉能都由思母能奴禮氏和伎奈
婆汝者故布婆曾母

うまぐらみのねのつゆものぬれむまきまはなこよはぶらも

和名抄望多即太 ともは及の言使へ古馬乗田しちく川ははあのぬく

れとてまをぬねらハ根等々、病あふしつて、能つらハちあまねぬれ

ていつあゝどきあまはあまのきしぬれてのそくと室もつら

まハ神と振しぬれまをれ、きすまをさハゆとハはくまればぞとつとてい

わがまねのなつそびくしつたおひとていひそあつていん

宇麻具多能禰呂爾可久里為可久太爾毛久爾乃登保可

爾保持里能可豆思加和世乎。爾倍須登毛曾能可奈之伎
乎。刀爾多氏米也母

ふほむのがーのこせとよくおほむのがーちあひらひていへぬ
あかろの柱向ふ格とぬ神は新嘗なまへ公ハおよふもく田舎の
氏戸よくとしおふせーちあひらひていへぬの人の入すもく
よ、ゆーとくーとくよあひらひていへぬの人の入すもく
おほむのちあひらひていへぬの人の入すもく
さつとくよふれがけ屋の戸おほむの布奈まよけせとや
いとよけ戸をとくとよけ

安能於登世受由可年古馬母我可都思加乃麻末乃都藝
波思夜麻受可欲波牟
あのおほむのがーのこせとよくおほむのがーちあひらひていへぬ

足のきせせぐりの寝きよ板一いふうと後してはれどがト度きよ川中
よむとむのきせせぐりの寝きよ板一いふうと後してはれどがト度きよ川中
つとくち、ち格とわうとく、思ひてはれどがト度きよ川中
がれとれとく

右四首下總國歌

筑波禰乃禰呂爾可須美為須宜可提爾伊伎豆久伎美乎
為禰氏夜良佐禰

つとくち、ち格とわうとく、思ひてはれどがト度きよ川中
此歌ハあかろの格とぬ神ハ新嘗なまへ公ハおよふもく田舎の
あかろの柱向ふ格とぬ神ハ新嘗なまへ公ハおよふもく田舎の
氏戸よくとしおふせーちあひらひていへぬの人の入すもく
よ、ゆーとくーとくよあひらひていへぬの人の入すもく
おほむのちあひらひていへぬの人の入すもく
さつとくよふれがけ屋の戸おほむの布奈まよけせとや
いとよけ戸をとくとよけ

いみぢきせむと都府佐神うすし我もこのうきわれはこゝの母の目と
思ひつゝのし思ふたはまふし〜
ハ平の度とく〜
おのあしうと形と〜
ねハをんをはり〜
きの遊吉は宣可提奴のあしう〜
この〜

伊毛我可度伊夜等保曾吉奴都久波夜麻可久禮奴保刀
爾蘇提婆布利氏奈

いよか〜
とわそ〜

筑波禰爾可加奈久和之能禰乃未乎可奈岐和多里南牟

安布登波奈思爾

つらねよかや〜
熟のあ〜
相接海〜
とせ〜

和名抄赫如いと名、こハ信し〜

筑波禰爾曾我比爾美由流安之保夜麻安志可流登我毛
左禰見延奈久雨

つらねの〜
そ〜
あ〜
ん〜
いよ〜

筑波禰乃伊波毛等孖呂爾於都流美豆代爾毛多由良爾
和家於毛波奈久爾

つらねのいももろよおつるみづよあまたゆいぢのあはたのいも

おつるのいもは流しと此のいもは依りて終んてはねいりていもは流し

たゆらんとよりのつらねは流しと此のいもは流しとあやあみくたりのいもは

おしがくおつるつらねよよよは多欲良おつるつらねよよよはつ家吉平

家吉平

蔽テ蔽ニ
誤

筑波禰乃乎氏毛許能毋爾毛利敝須惠波播己毛禮孖母
多麻曾阿比爾家留

つらねのいももろよおつるみづよあまたゆいぢのあはたのいも

つらねのいももろよおつるみづよあまたゆいぢのあはたのいも

つらねのいももろよおつるみづよあまたゆいぢのあはたのいも

左其呂毛能乎豆久波禰呂能夜麻乃佐吉和須良延許波
古曾那乎可家奈波賣

さごころのいももろよおつるみづよあまたゆいぢのあはたのいも

さごころのいもは流しと此のいもは流しとあやあみくたりのいもは

おしがくおつるつらねよよよは多欲良おつるつらねよよよはつ家吉平

家吉平

おつるのいもは流しと此のいもは依りて終んてはねいりていもは流し

たゆらんとよりのつらねは流しと此のいもは流しとあやあみくたりのいもは

乎豆久波乃禰呂爾都久多思安比太欲波佐波太奈利努

渡下本ハ
誤

乎萬多補天武可聞

をづくはのねるよづくあひまはたはたうぬとまねてんのも

つぐやハ月立ハ初月をさあひまより間夜若ん佐波太の太ハ余の保ま

さはよちまどしは夜ハ神月のそくは逢ては同じのそくらのまらま

れはいのあらん佐やせん又まらまのあらんあやぶあひま

宇都久波乃之氣吉許能麻欲多都登利能自由可汝乎見

牟左禰射良奈久雨

をづくハのまげまこのおよたつこのめゆのたまみん

冠禰考保まらハの保まあひままの群とつまら牟左の保ま

上のあひまいん保まらハの保まらつむれつまらけつる向まてハた

目あハあらんあらんハの保まらまの保まらまら十五お

をづくまらまらハの保まらまの保まらまら射良奈久雨

也書三多能も家侍莫国ある莫と真の保まらハの保まらまら
中らよまらまらハの保まらまらハの保まらまらハの保まらまら
くらくハの保まらまらハの保まらまらハの保まらまら

比多知奈流奈左可能宇美乃多麻毛許曾叱氣波多延須
禮阿舒可多延世武

ひもらあなまののらみのたまこそひけたえまらあつたえせん

たまののあまはくハの保まらまらハの保まらまらハの保まらまら

をぬんハの保まらまら

右十首常陸國歌

比等未奈乃許等波多由登毛波爾思奈能伊思井乃手兒

我許登奈多延曾禰

ひとみちのこゝたゆもをふちあびいぬのでごぶごたつるそよ
許等ハ言ハ填科郡の石井と子里の名をくんでこよよいりまづての
人のこゝに於ていふ所の名を許よりの言ハ終るるなつちとちんちと男のよ
ちんちん

信濃道者伊麻能波里美知可里婆禰爾安思布麻之年奈
久都波氣和我世

志まぬぢいあそふちかあをあふまむまくつをけわがせ

後紀和銅六年美濃信濃二国之堺經道險阻往還艱難仍通吉嶺路
此月、のりあよとの聖道といつる時代より、秋より聖なるよふ
と刈降るるま切樹のまを踏く、只害よるより、かやをぬハ削り根を
り之ハ古多たよ小竹之川材雖足跡破まくつをけらせハ著著吾夫こ
は新をりのるをせとせく通ハ男むる女のこ

信濃奈流知具麻能河泊能左射禮思母伎彌之布美氏婆
多麻等比呂波牟

志まぬぢいあそふちかあをあふまむまくつをけわがせ

此川ハ流麻耶在、今ハ他郡ハ此川の名をとて、さけハされ
いこふみそが流てあふとゆりよゆ

中麻奈爾宇伎宇流布禰能許藝氏奈婆安布許等可多思
家布爾思安良受波

ちのまぢいあそふちかあをあふまむまくつをけわがせ

中麻奈地名ちま、さうでハ信濃ありせんよ、中をなす川也、
和名抄更科郡小谷 宇宇 小縣郡童女 宇並 といふ地、古ハ年をよ
一の女子と年をよといふ、中ハ上中下といふ、
てと、あや、推さつての流ちれ、れと人ハ甲人といふ、

の海に又地はへる川もよふあふのうてり里なふる女のうこ
かゝるよめを敷きまらうよむかひも持たふは先かよきく一日を
みと惜しむわうと

右四首信濃國歌

比能具禮爾宇須比乃夜麻乎古由流日波勢奈能我素低
母佐夜爾布良思都

いのこれふうまひのやまよこゆるいんせちのぞぞまやまうらう

いのこれふうまひのやまよこゆるいんせちのぞぞまやまうらう

のらよまきうらりよりありそぞぞしりよハ根振袖とて夫の又つん

とサリマヨウとてちん人勢奈能我ハ夫名根之此下よ伊母能良尔と

まも妹根等尔とてしりよ夫名の名ハ即名まをを美とてちんたの例

根ハ物のかとてしりよ同く申すはあふ夫名と後根子と申たてまつり

父ハ久
ヲ世ハ

母とたくち根婦と吾根名根とて

安我古非波麻左香毛可奈思久佐麻久良多胡能伊利野
乃於父母可奈思母

あづいハまやうのしかたのしとてまうらたのいぬの根かたのし

まやうのしとてまやうのしとてまやうのしとてまやうのしとて

此郡を置しと和銅三年の紀まをゆハ聲ハそのの里へ持又との又

ハ父の語ちるまを夫の語ちるまを夫の語ちるまを夫の語ちるまを

しりよのしとてハ入母の奥とてけりてとてまのうとて並りや

可美都氣努安蘇能麻素武良可伎武太伎奴禮杼安加奴
乎安杼加安我世年

かみつけぬあまのまをむかひも持たふは先かよきく一日を

かよつ毛野の周りハ此勢ハ之の何まあふと安蘇ハ下よ安蘇ハ

よめり、そあそ、りり、里、ゆ、ゆる、志、麻、の、群、り、く、る、を、序、と、り、か、ま、り、抱、む、
た、き、の、身、抱、き、く、麻、の、群、も、も、れ、と、か、ま、り、抱、き、ぬ、る、と、ゆ、く、く、く、お、抱、て
寝、れ、ぬ、抱、ぬ、を、何、く、の、言、せ、ん、と、情、の、ゆ、く、と、り、り

可美都氣乃乎度能多孖里我可波治爾毛兒良波安波奈
毛比等理能未思氏

かみつけのそどなたどりぶがらあも、こゝあはたの、ひむらのみり

こゝ乃、野、の、つ、ま、と、道、し、と、も、り、あ、と、と、ゆ、と、ど、の、た、ど、り、が、こゝ、お、野、之、田
野、等、之、川、道、ふ、し、と、り、の、和、名、お、よ、甘、樂、緑、野、群、馬、の、三、郡、お、お、の、く
小、野、の、つ、あ、り、げ、中、ち、も、と、り、せ、と、お、り、を、子、は、り、く、此、川、海、里、を、あ、れ、く、
人、目、を、さ、あ、る、れ、が、あ、る、と、多、福、の、ゆ、よ、と、あ、り、や、し、の、り、ん、と
り、く、け、り、よ、お、遠、く、の、せ、よ、い、あ、く、さ、ん、く、り、の、こ、り、あ、あ、る、せ、れ
り、し、し、よ、み、つ、ぬ、こ、の、る、お、終、ち、し、ど、打、考、ら、り

或本歌曰可美都氣乃乎野乃多孖里我安波治爾毋世
奈波安波奈毋美流比登奈思爾

安波治の安ハ可のほろり

可美都氣野左野乃九久多知乎里波夜志安禮波麻多牟
惠許登之許高登毋

かみつけぬ、ぬの、く、な、り、を、り、や、あ、れ、か、ま、り、抱、む、こゝ、こゝ、ど、り、

た、ゆ、ハ、今、と、ま、り、の、り、里、を、く、く、く、ら、ハ、和、名、抄、置、久、知、蔓、菁、之、苗、也、と、も、
か、り、台、記、の、の、饗、膳、よ、並、立、と、く、く、と、り、ハ、お、ん、と、も、ハ、お、と、と、葉、あ、り、
あ、り、の、り、り、り、孝、子、と、よ、吾、角、ハ、清、筆、の、波、長、詩、と、吾、毛、ハ、清、筆、の、波
夜、斯、と、吾、完、ハ、り、り、り、り、波、長、志、と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
天、智、紀、を、傳、ふ、阿、例、播、俱、流、之、衛、と、二、つ、と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
よ、ち、や、の、ち、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

うろよきハ零雪ハ、ちきよきつひんりさうてぬハりさうん上ハ
ゆきこときいん料ハ

右二十二首上野國歌

之母都家野美可母乃夜麻能許奈良能須麻具波思兒呂
波多賀家可母多年

志もつげぬみづのやまのこたらのままぐらうらたけのむん

美ハ愛らうくハ前山ハ前といハ田圃ハあれハ小桶のそハちす
まてやくハ業廣擲のちてちいさき業うくハ業をそハ友ハほぬ
まきまのちれば、娘とらしむる娘とやハちん、室をこハわうのまハ
さくハのちハこさうハ本桶とていハ、まぐらハ古き久波志、妻達ハ
こときうてハそハ向ハくハハせむる詞まハ、友まハ、たうけハ、そハ小
ねハ、りハ、ゆハ、くハ、ちハ、あハ、まハ、きハ、やハ、むハ、をハ、まハ、しハ、ハ、持ハ、待ハ、

志母都家努安素乃河泊良欲伊之布麻受蘇良由登伎奴
與奈我己許呂能禮

志もつたぬあそこのつらよいあまどそらゆきまよまがさうのれ

和名ハ安蘇郡安蘇マ有ハ、今ハ、河ハ、と、そ、娘ハ、ち、と、母ハ、六、戸、マ
ま、河、原、と、流、ハ、お、ろ、ろ、ど、ま、ハ、と、り、ま、こ、ハ、や、ゆ、き、ま、ぬ、よ、ハ、は、從
と思ハ、て、ま、う、ゆ、る、よ、と、い、ま、ハ、ま、あ、ち、の、ま、ハ、ち、ハ、あ、ど、し、と、い、ま、ハ、
ま、が、ん、の、れ、ハ、神、ハ、か、く、思、ハ、て、ま、ハ、と、ら、け、ハ、こ、ら、や、は、ん、と、ま、
と、ら、ち、ハ、或、人、ハ、の、れ、ハ、乗、れ、ま、く、我、と、ち、ハ、と、い、ま、ハ、ま、ま、と、ら、ち、ハ、の、い、
り、と、い、ハ、た、考、べ、

右二首下野國歌

安比豆禰能久爾乎佐杼抱美安波奈波婆斯努比爾執牟
等比毛牟須婆左禰

あひつねのいひもよひやみあはさるる志ねびせんといひむよひも
和名抄會津郡ねい原之作の愛後より國遠くあはさるる相無ん
下よりあはさ布よりあはさ信よりさるるさるるのくとを將より
むよひさねはむとへ防人の別のあるるさるるさるるさるるさるる
して足よりあひつねのあはさるるさるるさるるさるるさるるさるる
元房本物の下 年と毛はねも同し

筑紫奈留爾抱布兒由惠爾美知能久乃可刀利乎登女乃
由比思比毛等久

つらたさるあひよこゆあまみちのものがさるるあめのゆいしよ
みよハ舞のさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
そとあそあ履し娘の法びし紐と、後等へ防人よれりよあめ女
よきくよあめ

安太多良乃禰爾布須思之能安里都都毛安禮波伊多良
牟禰度奈佐利曾禰

あづらのねよすそとのあつりあれつらんねよまよりそね
事七陸奥之吾田多良とより津二歩あつり古と集とウ袖の
あつりみらのあづらのまよりよあつりあづらいつるさるる
あつりさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
ハ様々様々必所あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
人と男と女とあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

右三首陸奥國歌

譬喻歌

等保都安布美伊奈佐保曾江乃水乎都久思安禮乎多能
采氏安佐麻之物能牟

とていあまのいそまほそそこのみまけく〜おしあつたのめいあまのいそまほそそこのみまけく〜
引依江引依取そのことこのこと海へん〜この海へん〜この海へん〜この海へん〜
海へん〜この海へん〜この海へん〜この海へん〜

右一首遠江國歌

斯太能字良乎阿佐許求布禰波與志奈之雨許求良采可
母與奈志許佐流良采

志太能字良乎阿佐許求布禰波與志奈之雨許求良采可
母與奈志許佐流良采
志太能字良乎阿佐許求布禰波與志奈之雨許求良采可
母與奈志許佐流良采
志太能字良乎阿佐許求布禰波與志奈之雨許求良采可
母與奈志許佐流良采

志太能字良乎阿佐許求布禰波與志奈之雨許求良采可
母與奈志許佐流良采

右一首駿河國歌

阿之我里乃安伎奈乃夜麻爾比古布禰乃斯利比可志母
與許巴波故賀多爾

阿之我里乃安伎奈乃夜麻爾比古布禰乃斯利比可志母
與許巴波故賀多爾
阿之我里乃安伎奈乃夜麻爾比古布禰乃斯利比可志母
與許巴波故賀多爾
阿之我里乃安伎奈乃夜麻爾比古布禰乃斯利比可志母
與許巴波故賀多爾

阿之賀利乃和乎可雞夜麻能可頭乃本能和乎可豆佐禰

母可豆佐可受等母

あむのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

かけむのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

とちとせらふのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

下へ吾とかけむのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

まふちせむのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

考かどふありふのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

興詩 けりかけむのちかけやまのあむのちかけやまのあむのちかけ

多伎木許流可麻久良夜麻能許太流木乎麻都等余我伊

波婆古非都追夜安良牟

たきふころ梅何ははく枝意ふるねの古木のまらうらんとてねと待よを

て汝が吾と信すいにおおこさるゝもの自ん流人ちとよけと私よ論す
のあまのむねやあんないふこといふはあまのむねの
字ハ之の信すよとよまへる字也

右三首相模國歌

可美都家野安蘇夜麻都豆良野乎比呂美波比爾思物能

字安是加多延世武

かみつるあそやまのあまのあそやまのあまのあそやまのあまのあそ

よのちをいふよのちをいふよのちをいふよのちをいふ

伊可保呂乃蘇比乃波里波良和我吉奴爾都伎與良之母
與多敝登於毛敝婆

いのかるのそひのちうらつらつさあまよけよらうまよたんとおわへ

かきしちるべし或人ハ多妻里水の赤祓の儀をんしと云

一云麻之毛安禮母

まのハシマール

麻等保久能久毛為爾見由流伊毛我敝爾伊都可伊多良
武安由賣安我古麻

まのやくのくちおまゆふいもつうのくそんあゆめあがこま

まのあそくより遠くは妹ごのハ妹之家へ安我ハ五言

柿本朝臣人麻呂歌集曰等保久之氏又曰安由賣久路

古麻

安豆麻治乃手兒乃欲妣左賀古要我禰氏夜麻爾可禰牟

毛夜杼里波奈之爾

あつまらのたごのよひいごのこえがねてやまおのねんもごのハたのーみ

やちもをん何ごうあり富きそ手ハたこまて即田子浦田あや
くの産屋山へ坐武祝儀もたごのよひいごのとよめとつりね
むものハ御禰

宇良毛奈久和我由久美知爾安乎夜宜乃波里氏多氏禮
婆物能毛比豆都母

うらもれとわのゆくみちよあををまのばりてたてれがものむしづも

うらもれはなほゆるもさくをめてもそれぐ柳の芽の生るる物さ
出つとつを思ふるなれば上のつを寫きよちや豆一本豆は他
そのむしづも、あひおめてこと何ご

伎波都久乃字加能久君美良和禮都賣杼故爾毛乃多奈
布西奈等都麻佐禰

きはづくのむものくみらわれしあひあゆのつなせたまし

初句のかがみ、結句へるけく見下、ひとごとく他るく、結句がゆつてもさういひ
おどしと、先つる所の疾よ甚よと、他のふきを語りく、ふれをきくふつひよ
らうとととのめ、は後程たのむふつひ

久佐可氣乃安努努奈由可武等波里之美知阿努努波由
加受氏阿良久佐太知奴

とまのけのあめなゆのんとをさうみちあめつひゆのぞてあらうとさだめ
草十二草陰之荒藪の傳ともみ、倭姫命世紀は汝国名何問賜白久草陰阿
野国しあめ皆あつきたる結句わんの、定まそ阿努ハ地名のゆくせぬ
奈ハ余の誤つといひ、あめあめつちハ、吾主根之とつちを、根を乃とて奈
とつちハよま勢奈能我とてりてさうふ同く、ぬし根とあめ
つちと、それハその乃をぬまぬりといひ、下の奈ハ之のことましく様あめ
ゆりてさうハ、吾も通うんとく人目たき、結句をひらき、今ハ海ハ

佐八行交

波奈知良布已能牟可都字乃字那能字能比自爾都久佐
麻提伎美我與母賀母
えなちらよこのむみつをの、をたのむの、ひとつちまで、きみおよかも
花散向事をもをないくと、と、後を地を、を、この事ある、自ハ
目の程も、いひしつちまでと、訓、一本佐の字を、と、と、と、と、と、
事の低く、事、結の、重紐、つち代まで、あが代、あれ、う、と、り、と、
べ、い、れ、る、の、を、保、つ、ち、と、の、う、う、う、う、と、

思路多倍乃許吕母能素低字麻久良我欲安麻許伎久見
由奈美多都奈由采

神名帳に宇陸国那賀郡酒列磯崎神社云々
 一、
 こまろしとてゑい、いづれは
 やせりよとたふらひてゑい、
 尊秋則放天斑馬使伏田中
 あはささきこゑもとおもひ
 さかれば、そはると進む程と
 ことの毛よりぬい、まある
 衆つ

於毛思路伎野乎婆奈夜吉曾
 布流久左爾仁比久佐麻自
 利於非波於布流我爾
 おもしるまぬまはなやまきり
 するさるよほひきまはら
 おおいはあるがふ

万解十四上

三十八

我ハハガハハ、河きく政らり、是ハたゞ、妻のそのい
 可是乃等能登抱吉和伎毋賀吉西斯伎奴多毋登乃久太
 利麻欲比伎爾家利
 かぜのものほあつむもぶまは、あれたものこづりまよひまよけり
 風のまの地河、まハ所くまゝ流さつて、二年経るあまのれづ
 て、あや、衣の秋のそくなひ、おとりのま、そりて、
 衣履のまよひを能らるとかかんとはあるよひ、
 ころり、
 爾波爾多都安佐提古夫須麻許余比太爾都麻余之許西
 禰安佐提古夫須麻

あは、また、あせぐ、こまろ、こよひ、たよ、まよ、し、
 あそ、なつ、花河、麻柳、の小舎、く提、多倍、の物、ま、こよひ、ま、ま、

此本むとごよひがうそとつてつまよりこせぬまよりの本をせよ
此本のみ名よあひてつてあられなき九味のとあけ止りよりの本に社
妻依本西尾妻といひたまがうとつてよほど神代紀妹盧豫嗣尔孫
嗣豫利禰祢これ八目依と依く来ねといふ

此本むとごよひがうそとつてつまよりこせぬまよりの本をせよ
此本のみ名よあひてつてあられなき九味のとあけ止りよりの本に社
妻依本西尾妻といひたまがうとつてよほど神代紀妹盧豫嗣尔孫
嗣豫利禰祢これ八目依と依く来ねといふ

010190519282

